

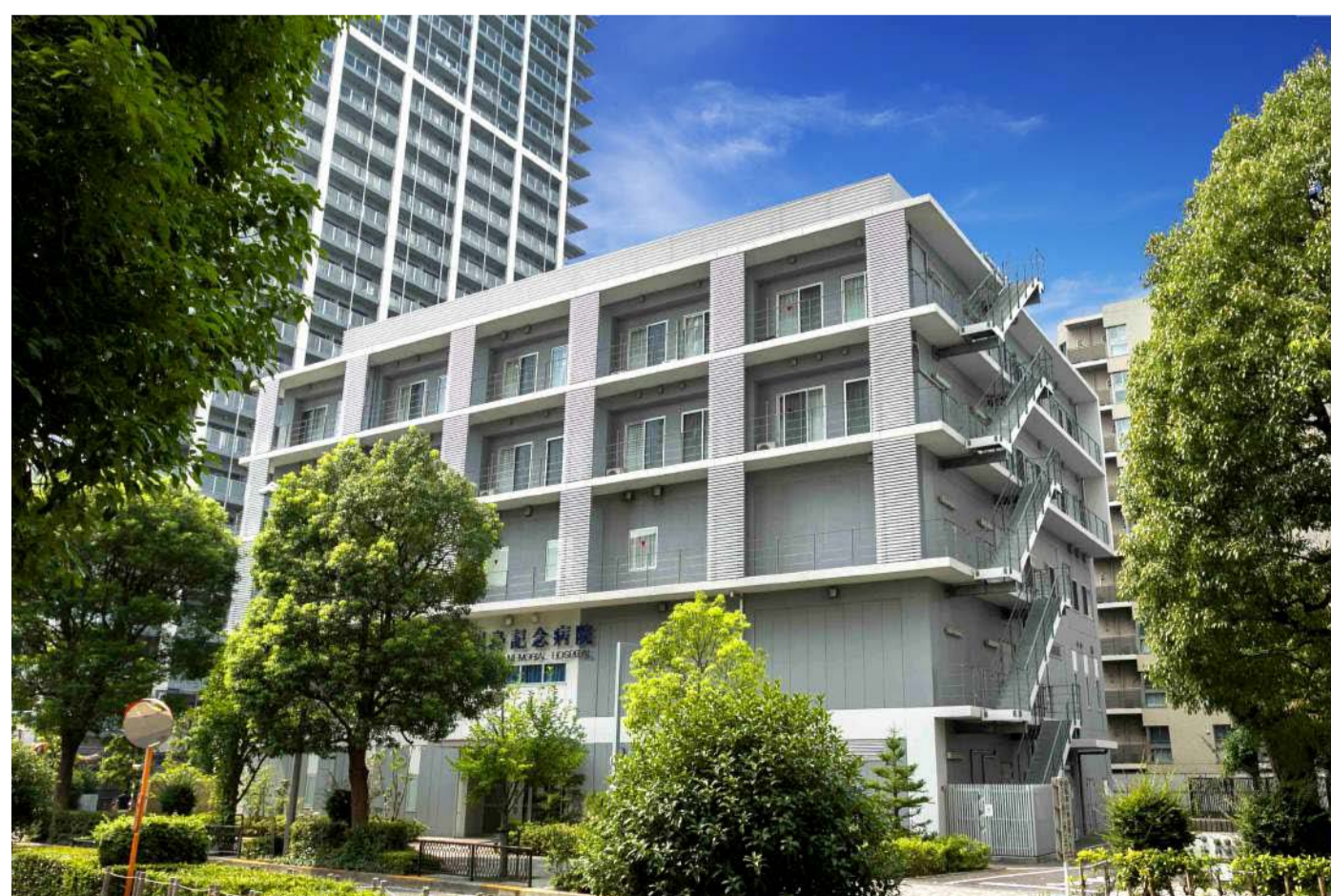
石川島記念病院が診療を再開しました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



診療休止中だった石川島記念病院が、9月1日（外来診療は9月2日）から約9カ月ぶりに診療を再開しました。院内の設備などを一部リニューアルし、回復期リハビリテーション病棟を中心にした新たな体制で再スタートしています。私も、外来診療再開初日に視察してきたので、同院のリニューアルのポイントや感想などについて述べたいと思います。

石川島記念病院は、健育会グループの中では最も規模が小さい病院です。同時に東京都中央区に立地し、グループ内で最も都心部にある施設でもあります。この地域には聖路加国際病院や昭和大学江東豊洲病院があるため、健育会が石川島記念病院を開院した当初は循環器に強い専門病院を目指していました。しかし、近隣の大病院では外来診療が3～4時間待ちという状況で、地域の患者さんの診療に十分対応できていないことがわかりました。今回のリニューアルの目的は、石川島記念病院が地域に密着した病院として生まれ変わり、地域の医療ニーズに応えるという社会的使命を果たすことです。



視察時は、新しく院長に着任した重田洋平先生に院内を案内してもらいました。



この地域の全ての患者さんの主治医に

石川島記念病院 重田洋平院長



回復期リハビリテーション病棟を備えた当院は、中央区初というだけでなく、台東区など近隣エリアを含めても貴重な存在になっています。近くの大きな病院にごあいさつに行ったときも、大変歓迎されました。早速患者さんにもご来院いただいております、この地域で本当に回復期リハビリが求められているのだと実感しています。

また、ほとんどの回復期リハビリ病院は外来診療を行っていませんが、当院は内科と整形外科の外来を受け付けていることも特徴です。内覧会では多くの方から「診療再開はいつですか？」と聞かれ、大変ご期待いただいていると感じました。そのご期待に応えられるだけの設備も備えており、この地域の全ての患者さんの主治医として地域医療に貢献することが、我々の責務。スタッフ一同が、それを果たそうと意欲に燃えています。

この地域は、石川島記念病院の開院前から整形外科の患者さんが多かったという歴史的な背景もあり、診療再開を心待ちにされていた患者さんが多かったようです。再開初日の午前中にスタッフがメインエントランスから出たところ、通りがかった高齢の女性から「午後の受け付けは何時からですか？」と尋ねられたそうです。その方は、休診前からの患者さんで既に診察券をお持ちで、診療再開を喜び、午後の予約をして帰られたという話を聞きました。整形外科の患者さんは初日には多く来院しており、リハビリの入院もありました。長い歴史を持つ病院の新しい一歩として、順調な出だしになったと思います。



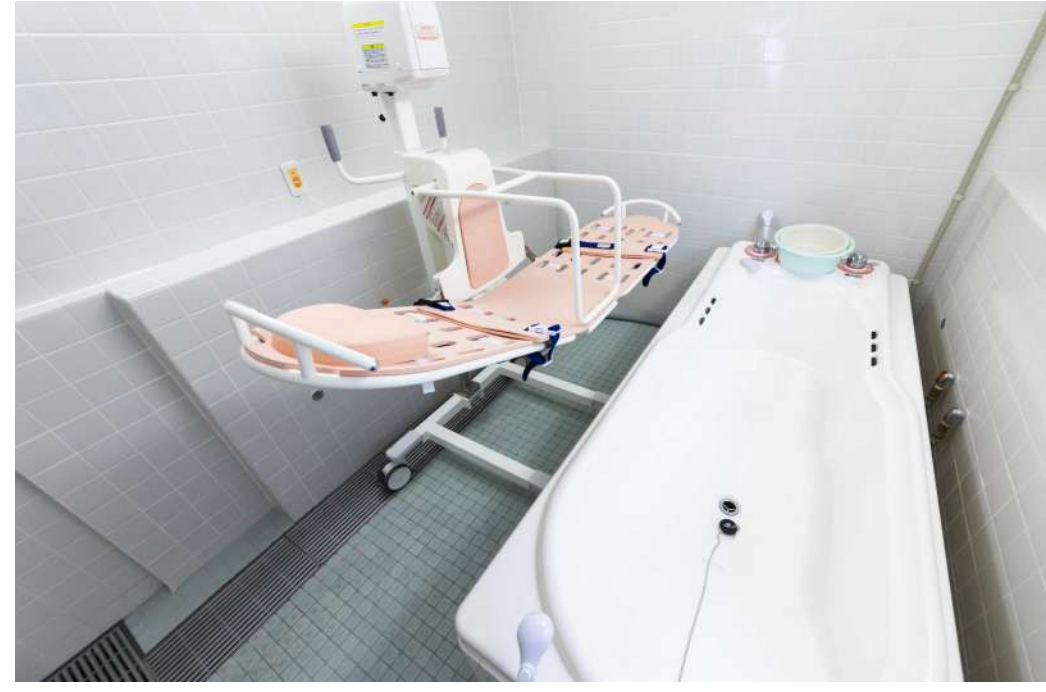
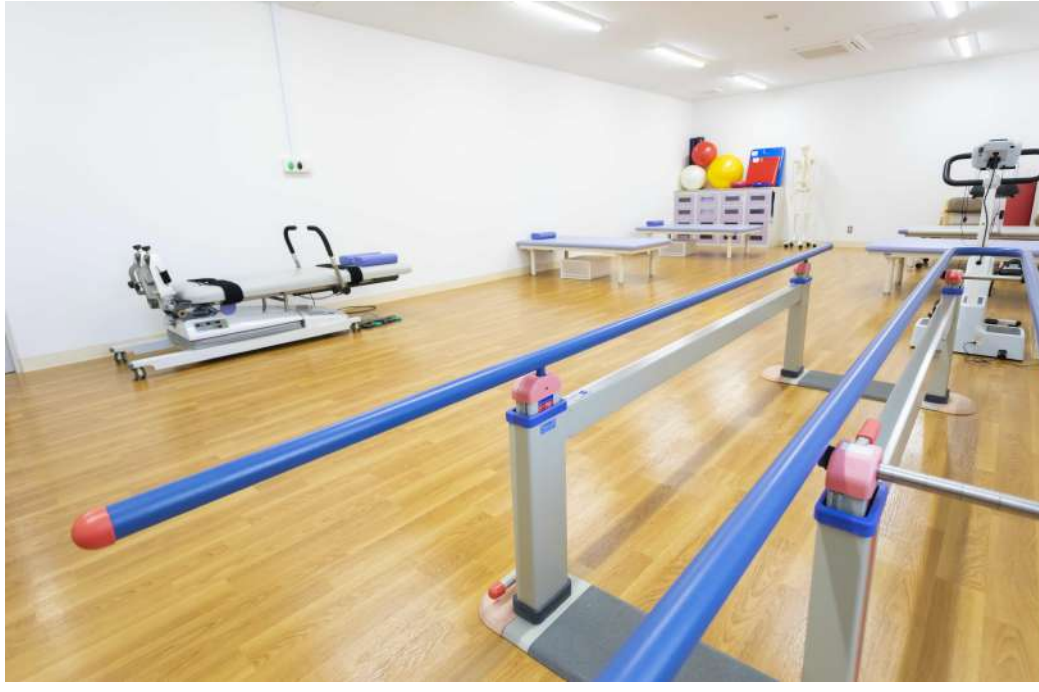
外来診療に関しては、今後は近隣の大病院から患者さんをご紹介いただくこともあります。逆に、石川島記念病院で十分な治療ができない場合は大病院を紹介し、治療が一段落してリハビリが必要になった時点で、改めて同院で受け入れるということもあるでしょう。病院だけでなく医師やソーシャルワーカー同士も緊密に連携を取り合い、今まで以上に地域医療への貢献を目指します。院長補佐の池崎清信先生は、リハビリ病院の立ち上げに何度も関わってきた経験豊富な医師です。循環器内科が専門の重田院長と力を合わせて、石川島記念病院を盛り立ててほしいと思います。

石川島記念病院 池崎清信院長補佐



今回のリニューアルで大きく変わった点としては、やはりリハビリ関連設備。以前カテーテル室だったところを、新たに「リハビリ室2」として改装しました。以前からあった一般床用の「リハビリ室1」に回復期病棟用のリハビリ室2が加わり、全47床のリハビリ専門病棟としては、広いリハビリスペースを備えるようになりました。また、浴室やトイレなどが、車いす対応に変わっています。

一方、休診前に石川島記念病院で働いていたスタッフの中には、辞めずに一時的に竹川病院などへ異動し、診療再開に合わせて戻ってくれた人達があります。これは私個人としても大変嬉しいことですし、そのスタッフ達が再開当初の屋台骨を支えてくれます。経験や実績が豊富なスタッフ達なので、同院の大きな強みになるでしょう。休診前に導入していたハイスペックのCTやMRIは、再開後も引き続き使用します。同院の規模で、これらの高性能医療機器を備えている点も、特徴の一つだと自負しています。



休診前に「閉鎖しないで欲しい」という地域住民の声が聞かれず、少し寂しい思いをしました。これからは前述したような「再開されて良かった」という声を1人でも多くの患者さんからいただいて、地域住民に愛される病院を目指してほしいと思います。この地域には高齢の患者さんが大勢います。石川島記念病院のスタッフの皆さんには、高齢者に喜ばれるきめ細かいサービスを期待しています。今後の目標は、まずスタッフを増員し、満床を目指すと同時にリハビリ基準の向上を図ること。リハビリ専門病棟で47床というのは小規模のため、採算面では難しいところがありますが、患者さんには満足していただけるはずです。

他の健育会グループの各施設は、石川島記念病院が軌道に乗るまでの間、それを支えるための確固たる経営基盤の確立に取り組んでください。私も、1日も早く同院の採算が合うように力を注ぎ、健育会の更なる発展に尽力します。

